

（ 気になる疑問にお答えします ）
出産なび Q&A

Q1

どのような施設が掲載されていますか？
掲載されていない施設はありますか？

2026年2月現在、以下の施設(病院、診療所、助産所)を掲載しています。

- 出産育児一時金の直接支払制度を利用しており、年間の分娩取扱件数が21件以上の施設
- 上記を満たさないが、掲載を希望する施設(分娩を取り扱う場合に限り)

(参考)掲載されていない施設

- 分娩を取り扱わない施設(妊婦健診のみ・人工妊娠中絶のみを取り扱う場合を含む)
- 出産育児一時金の直接支払制度を利用しておらず、掲載を希望していない施設
- 出産育児一時金の直接支払制度を利用しているが、年間の分娩取扱件数が20件以下であり、掲載を希望していない施設
- 開業して間もない施設

今後、妊婦健診や産後ケア事業を扱う施設についても掲載を予定しています。

Q2

検索結果が表示されない地域はありますか？

地域による掲載条件の違いはありません。分娩を扱う施設が存在しない、あるいはどの施設もQ1の条件に該当しない地域については、検索結果が表示されない場合があります。

Q3

費用の目安など、施設ページで紹介されているのは最新情報ですか？

最新情報を掲載できるよう、費用情報は年に4回更新、施設の情報は随時更新しています。

🗣️ User's Voice

初めての出産で、不安だらけの産院選びでしたが、必要な情報が一覧で見られて助かりました。

(30代女性／神奈川県)

自宅から近くて、希望にあった産院を選ぶのにとても役立ちました。つわりもあり、働きながらの産院探しだったので、希望条件で検索できたのが非常に助かりました。

(30代女性／東京都)

第1子は自宅最寄りの産院で出産しましたが、第2子のときは自分ができることがないかと考え「出産なび」で施設を探しました。ママのこだわりを叶える出産ができて、喜ばれました。(30代男性／千葉県)

（ 出産なびでわかる！ ）
施設選びのポイント

施設の概要

- 施設種別
(周産期母子医療センター^{※1}であるか、入院設備があるかなど)
- ベッド数
(産科／NICU〈新生児集中治療室〉)
- 産科専用の病棟か
- 年間の分娩件数(経膈分娩^{※2}・帝王切開)
- 医師数(産科医・小児科医)／助産師数
- 入院中の検査や出産後の健診ができるか

施設の規模や地域における役割、専門職の人数などをチェック！

サービス内容

- 助産師外来^{※3}や院内助産^{※4}があるか
- 入院中に母乳指導などの授乳・育児のサポートをしてくれるか
- 立ち会い出産ができるか
- どのような無痛分娩ができるか
- 個室があるか
- 母子同室かどうか

助産師によるサポート、家族と過ごせるか、無痛分娩が24時間対応かなど、施設が大事にしている項目が見えてきます。

費用など

- 分娩にかかる費用の総額^{※5}
- 室料差額等を除いた出産費用
- 入院日数の目安

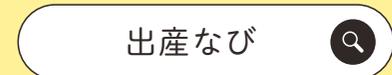
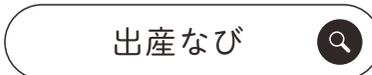
自分が希望するサービスと費用感のバランスを確認しておきましょう。

- ※1 周産期母子医療センター：リスクの高い妊産婦、胎児・新生児に高度な医療を提供することが可能で、地域の医療施設から搬送を受ける立場にある施設
- ※2 経膈分娩：赤ちゃんが膈を通して生まれてくる方法
- ※3 助産師外来：助産師が医師と連携しておこなう、助産師による妊婦健診や保健指導のこと
- ※4 院内助産：助産師が医師と連携しておこなう、妊娠中から分娩中、産後のケアのこと
- ※5 出産育児一時金(原則50万円)を差し引く前の金額



全国の出産を取り扱う施設の
出産費用とサービスがみえる

出産なび



一人ひとりに合った施設選びができるように

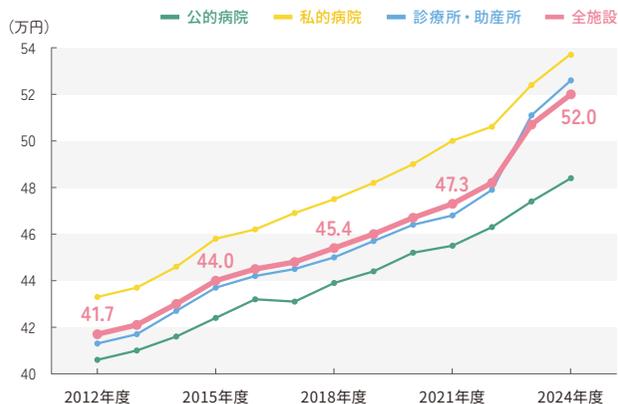
✓ 出産なびが生まれたワケ

初産か2人目以降の妊娠か、里帰り出産をおこなうかなど、妊婦さんやパートナー・ご家族の状況によって、妊婦健診をおこなう施設や、出産施設に対するニーズはさまざまです。一方、出産にかかる費用も、地域や施設によってばらつきがあり、施設選びの際にそれぞれの施設の情報を一つひとつ調べるのは簡単ではありませんでした。

このため、妊婦のみなさんがあらかじめ費用やサービスの情報を踏まえて適切に出産する施設を選択できるよう、全国の分娩を取り扱う施設ごとのサービス内容や出産費用の状況などを厚生労働省のウェブサイトで公表することとなりました。2026年2月現在、全国の出産を取り扱う施設のほぼ100%の情報が掲載されています。

※ 出産育児一時金の直接支払制度を利用しており、2024年度に21件以上の分娩取扱実績のある施設のうち、分娩取扱を継続している施設が対象。そのほかの分娩取扱施設も任意で掲載。

● 正常分娩の出産費用（室料差額等^{※1}を除く）



出典：厚生労働省「正常分娩の平均出産費用の年次推移」^{※2}

※1 室料差額、産科医療補償制度掛金、その他の費目を除く費用の合計額

※2 2025年12月 第207回社会保障審議会医療保険部会 資料1より

施設の規模だけでなく、私立か公立（国立／県立など）かによっても出産費用には差があります。

出産費用とサービスの“見える化”で自分らしい出産施設選び

施設選びのポイントは人それぞれ。「出産なび」では、各施設のサービスや費用といった情報を整理し、公平でわかりやすく、確認しやすい形でまとめました。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

リアルな出産費用の目安がわかる！

✓ 出産なびの特徴

厚生労働省が運用しているから安心！

病院、診療所、助産院など全国ほぼ全ての出産施設を紹介しています。厚生労働省が全国の施設から情報収集をおこない、さらに随時更新をしながら運用しています。

さまざまな条件で探しやすい！

現在地や最寄り駅に加え、無痛分娩や立ち会い出産、土日の外来といったこだわり条件からも検索可能。各施設ページには、さまざまな詳細情報が詰まっています。

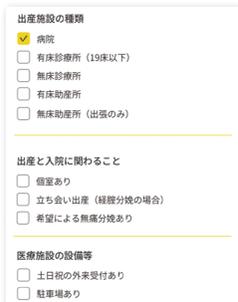
実際の請求額がわかる！

費用目安は、各施設が実際に請求した直近のデータをもとに厚生労働省で整理したうえで掲載。請求額は一人ひとり異なりますが、施設ごとの請求金額の傾向がわかるので、比較検討しやすいのが特徴です。

今後、アップデート予定！

産後ケア事業施設も検索できる！

出産後1年以内のお母さんと赤ちゃんに対して、心身のケアや育児の支援などのサポートをおこなう産後ケア事業。そんな産後ケア事業を扱う施設の情報は今後掲載予定です。



※ 画面はイメージです。

かんたん3ステップ！

✓ 出産なびの使い方



便利なお気に入り登録も！



※ 画面はイメージです。



出産費用はいくらかかる？

出産費用は施設や出産方法などによりさまざまです。病気や怪我での受診時とは異なり[※]、出産育児一時金(原則50万円)が一律で給付されます。現在、多くの施設では「直接支払制度」を導入しているため、退院時の窓口での支払い額を出産育児一時金が差し引かれた額に抑えることができます。

加えて、自治体によっては、独自の助成制度を設けているところもあります。お住まいの地域を確認してみましょう。また、妊婦健診や産後ケア事業については、自治体からの助成が受けられますが、自己負担費用や実施内容は施設により異なります。

※ 帝王切開術などの保険診療分については、病気や怪我と同じく、3割などの負担となります。